

書部門

審査員：岡本 荅泉 先生

愛知県出身 名古屋市在住

1989年 名古屋市立菊里高等学校教諭
1990年 愛知教育大学助教授
1992年 筑波大学芸術学系教授
1993年 九州女子大学教授 人間文化学科
1994年 筑波大学名誉教授
2004年 九州女子大学特別客員教授

主たる研究および著書

漢代木簡による草書の研究
漢代草書による作品制作
漢字とかなによる調和体の作品制作
中国書論体系 清（二玄社）
毛筆基本辞典 （二玄社）

所属および発表展覧会

玉信会会長
読売書法展・謙慎書道展
日展会友

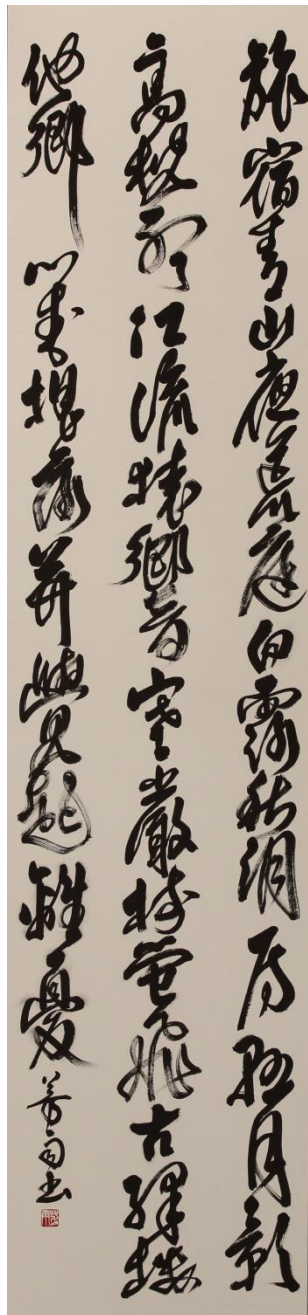
＜総 評＞

様々な書表現を熱心に取り組んで追及される姿が印象的であった。一画一点が空間にいかに関わりかけるかは長短・細太等、更に筆勢が加わり、作者の姿勢が異なる一画を置くことを重視する作品が目立った。

■ 市展賞 ■

「深渡驛」 松田 芳雨

たて長の字形を主とし字間を詰め行間を空けることで充実感があり、行書の流動感がよく生かされた。各字形の姿もよい。



■ 特選 ■

<読売新聞社賞>

「初瀬山」 堤 笑子

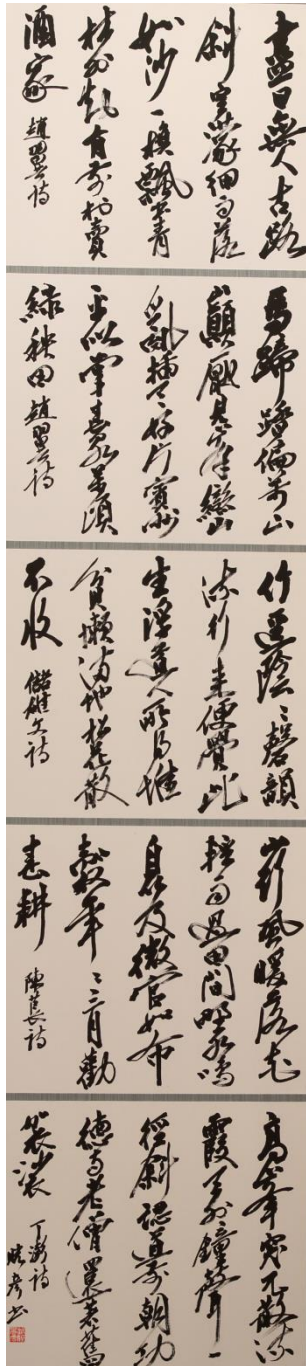
平明な形を鍛錬された線で明るい作品となった。読めるといことがいかに大切か分かる。



■ 特選 ■

<彦根ライオンズクラブ 会長賞>
「清詩五首」 近藤 昉彦

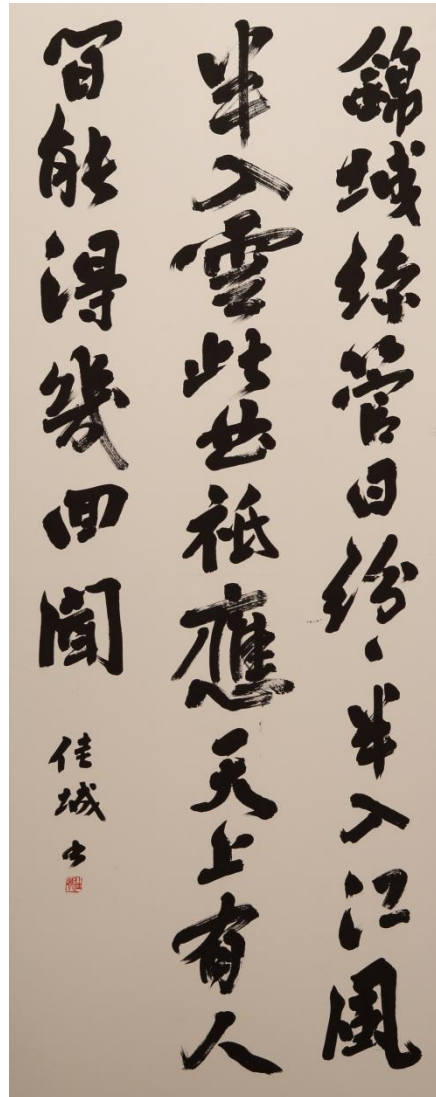
行書の中でも直線を主体としたもので清潔さが漂う。紙面を五枚に分ければ自分の中で類型化することがある。



■ 特選 ■

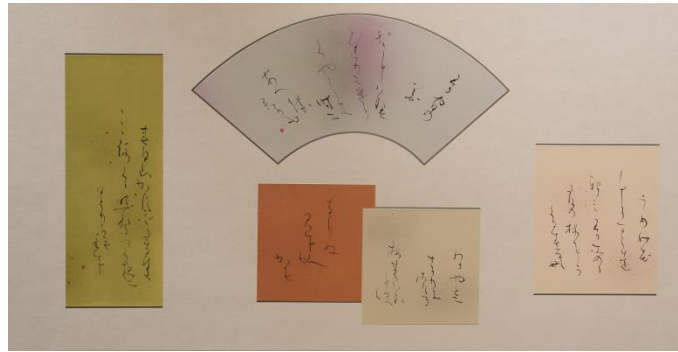
<NHK天津放送局長賞>
「杜甫詩」 福井 佳城

落ち着いた重厚な筆遣いでよく統一した。ともすれば点画が重なり、墨の固まりのような表現になりがちになるがうまく避けている。



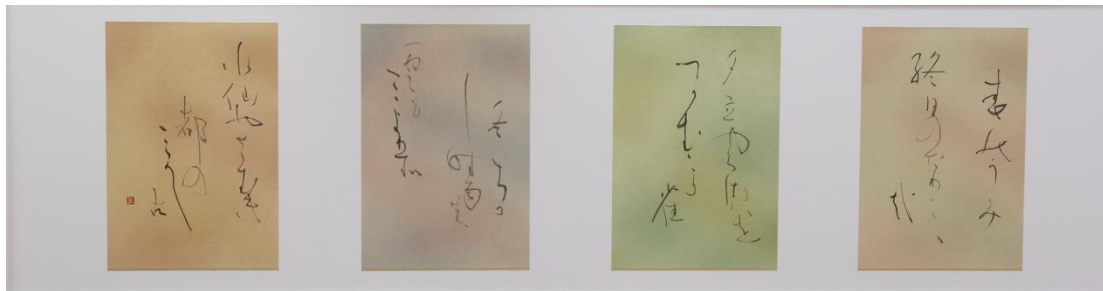
■ 特選 ■ <彦根観光協会 会長賞>
「梅の花」 橋本 洋子

伸びやかな点画を墨を多目に用い、軽快さが表現された。紙面の収まりもよく考えられていて良い。



■ 無鑑査奨励賞 ■
「むら雀」 森野 美佐子

字形の大胆な構成、余白の置き方墨含みの効果に加え、料紙の取合せが美しい。



書部門

展示場所：メッセホール（メッセホール棟 3階）

No.	賞	題 名	氏 名	備 考
1		百人一首	山下 かつ江	
2		王維詩の一節「農月無閒人」	小林 由喜枝	
3	特 選	杜甫詩	福井 佳城	NHK大津放送局長賞
4	佳 作	秋思	筒井 和彦	
5		良寛詩一首	上條 翠波	
6		王維詩	森 直子	
7		王維詩	川村 圭子	
8		梧竹堂書話	細溝 恵	
9	特 選	梅の花	橋本 洋子	彦根観光協会会長賞
10		高青邱詩	寺村 則子	
11		琵琶湖周航の歌	堤 豊宏	無 鑑 査
12		はつしも	岡野 有泉	無 鑑 査
13		子規の句	後藤 有啓	無 鑑 査
14		書譜より	北川 依子	無 鑑 査
15		山河	山田 祥代	無 鑑 査
16		百人一首より	安居 孝昌	委 員
17		李白句	岡本 苔泉	審 査 員
18		李賀詩	中村 哲	委 員
19	無鑑査奨励賞	むら雀	森野 美佐子	無 鑑 査
20		心飛	押谷 達彦	無 鑑 査
21		張謂詩	高萩 有子	無 鑑 査
22		我が師・藤本義一先生の言葉	川村 啓子	無 鑑 査
23		臨鳴鶴・彦根高等女学校 創立30年記念祝詩	西脇 大雄	無 鑑 査
24		五言絶句	大澤 美津子	
25		耿滄の詩	疋田 礼子	
26	佳 作	千字文より	吉田 保	
27		沈朝初詩	徳山 清奈	
28		季嶠詩	内堀 政子	
29		盧綸詩	辰巳 輝子	
30		五字句	西野 源太郎	

No.	賞	題名	氏名	備考
31		歩月	押谷 曜子	
32		漢詩	森 幸子	
33	特選	清詩五首	近藤 暁彦	彦根ライオンズクラブ会長賞
34		古今和歌集より	小城 美奈	
35		臨王氏一門書集	岡田 拓紀	
36		臨始平公 造像記	林 裕奈	
37		臨黃州寒食詩卷	堀部 夏穂	
38		臨何紹基	藤居 茉由	
39		臨九成宮醴泉銘	森本 智香子	
40		臨關中本千字文	西尾 瑛未	
41		臨近衛本和漢朗詠集	山内 菜緒	
42		臨風信帖	田中 莉穂	
43		(李白詩) 漢詩	西川 一男	
44		王昌齡詩	遠藤 啓子	
45		五言絶句	望月 千舟	
46		明詩五首	佐野 美千子	
47		偶成	山口 健作	
48	佳作	白居易詩	諸岡 富美子	
49	市展賞	深渡驛	松田 芳雨	
50	特選	初瀬山	堤 笑子	読売新聞社賞
51	佳作	臨頌篋	疋田 栞	次世代芸術奨励賞
52		井伊大老の歌	山口 敦子	
53		七言二句	西墓 久子	
54		池水	田中 八重子	
55		漢詩より「寒梅香」	多田 功一	